

～子供たちの夢をかなえる教師になる！～

東京教師養成塾通信

発行日 令和4年4月20日<第2号>
発行元 東京都教職員研修センター
研修部教育開発課
電話 03-5802-0318
ホームページ <https://www.kyoiku-kensyu.metro.tokyo.lg.jp/10jikai/yosei/index.html>

●第3回教科等指導力養成講座

令和4年1月23日(日)東京都教職員研修センターにおいて、第3回教科等指導力養成講座をオンラインにより実施しました。高瀬 智子 主任指導主事の挨拶では、特別教育実習に取り組む上で、「休み時間に、児童・生徒と積極的に遊ぶこと」、「感謝の気持ちをもって、一つでも多くのことを学び取ること」、「感染症対策を徹底すること」の3点について話がありました。

○ 講義・演習「学級経営」

教職員研修センター研修部教育開発課 塚原 雄太 指導主事から、学習指導要領に基づいて、学級経営の意義や指導上の留意点、言語環境や教室環境の重要性についての話がありました。塾生は、学級経営の充実に向けた具体的な取組について塾生同士で協議することを通して、特別教育実習における目標や今後の課題について考えました。

○ 講義・演習「いじめ・不登校」

東京教師養成塾教授から、いじめ・不登校への対応についての講義を行いました。

いじめと不登校のそれぞれの定義や現状について学ぶとともに、事例を基にした演習を通して、いじめの未然防止、早期発見、早期対応に必要な具体的な取組、不登校の児童・生徒への支援の在り方について学びました。

○ 講義・演習「算数①」(小学校コース)

東京教師養成塾教授から、学習指導要領に示されている算数科の目標や内容、数学的な見方・考え方についての講義がありました。塾生は、児童役となり、問題を解く演習を通して、主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業づくりについて考えました。

○ 講義・演習「生活①」(小学校コース)

東京教師養成塾教授から、生活科の授業づくりについての講義がありました。塾生は、具体的な単元づくりの演習を通して、学習指導要領に示された目標や内容を踏まえて、指導と評価の計画を作成することや、学習対象を把握するために教材研究が重要であるということについて学びました。

○ 講義・演習「アセスメントと教育課程」(特別支援学校コース)

都立あきる野学園 渡辺 裕介 副校長を講師に招き、児童・生徒のアセスメントに基づいた教育課程の編成についての講義を行いました。塾生は、生活場面の事例から、児童・生徒の行動を細分化し、課題を細かく分析する方法について学びました。

○ 講義・演習「国語と算数①」(特別支援学校コース)

東京教師養成塾教授から、国語と算数における授業づくりについての講義がありました。塾生は、児童・生徒の認知を体験する活動を通して、目と手の協応学習や見本合わせの学習等について学ぶとともに、特別教育実習に生かしたいことについて考えました。

【塾生の感想より】

- いじめ問題は、即座の対応と誠意のある対応が最重要だと学んだ。違和感を抱いた時点で、管理職に報告をし、判断を仰ぎ、できることをすぐに実行していきたい。
- 児童が算数で学んだことと日常生活を繋げることができるように、既習事項を把握した上で授業を行うことが大切だと学んだ。
- アセスメントは、発達検査、心理検査だけでなく、日頃の観察等から行うことができることを学んだ。
- 特別教育実習が始まり、講座や班別協議で児童の姿がイメージできるようになった。講座が終わると、早く実習に行っていきたいという気持ちになる。

生活科の授業の構想をイメージしましょう。

具体的な活動や体験を通して、身近な生活に関わる見方・考え方を生かし、自立し生活を豊かにしていくための資質・能力を次のとおり育成することを旨とする。

生活科授業の方法論的基礎	～を通して、
生活科固有の見方・考え方	～を生かし、
生活科を通して育成する児童の姿	自立し、生活を豊かにしていく
・自立し(学習上、生活上、精神的) ・生活を豊かにしていく	資質・能力を育成する。
	授業の構想



●第4回教科等指導力養成講座

令和4年2月13日（日）東京都教職員研修センターにおいて、第4回教科等指導力養成講座をオンラインにより実施しました。高瀬 智子 主任指導主事の挨拶では、前回講座の塾生の振り返りから、「できないことではなく、今できることに視点を置くこと」、「教材研究や自己研鑽に励むこと」が大切であるという話がありました。

○ 講義・演習「プログラミング的思考を育む授業づくり」

教育庁指導部指導企画課 岡村 健 統括指導主事を講師に招き、学習指導要領に示された「プログラミング教育」の目標や取り扱う学年や教科等についての講義がありました。塾生は、プログラミング教材の体験を通して、プログラミング的思考を育む教材、授業づくりの基礎について学びました。

○ 講義・演習「指導と評価」（小学校コース）

東京教師養成塾教授から、指導と評価の一体化、観点別評価の内容や方法、評価規準の作成と手順についての講義を行いました。塾生は、講義や演習問題を通して、指導と評価の基本的な内容や方法について学びました。

○ 講義・演習「理科①」（小学校コース）

東京教師養成塾教授から、理科の目標や内容、理科の見方・考え方についての講義を行いました。塾生は、育成すべき資質・能力を踏まえた教材を考える演習を通して、学習指導案の作成や授業づくりの基本的な内容について学びました。

○ 講義・演習「社会①」（小学校コース）

東京教師養成塾教授から、社会科の目標や内容についての講義がありました。演習では、第5学年「米づくりのさかんな地域」の指導と評価の計画作成を通して、課題把握、課題追究、課題解決の一連の学習過程について考え、意見を共有しました。

○ 講義・演習「指導と評価」（特別支援学校コース）

企画部企画課 高月 洋 統括指導主事から、特別支援学校における指導と評価についての講義を行いました。個別指導計画を作成する演習を通して、児童・生徒の実態把握、個に応じた目標の設定、効果的な手だてについて実践的に学びました。

○ 講義・演習「作業・社会性の学習」（特別支援学校コース）

研修部専門教育向上課 桑田 昌明 統括指導主事から、作業学習及び社会性の学習の目標や内容についての講義を行いました。また、場や時間についての事例紹介がありました。塾生は、特別教育実習の具体的な取組について考えました。



【塾生の感想より】

- プログラミング教育のねらいだけではなく、教科等での学びをより確実なものにすることが重要であるということを学んだ。
- 児童に対して教師が評価をするということは、教師の授業改善という形で還ってくるという言葉が最も印象に残った。
- 導入の工夫が大事だと学んだ。実験や観察を行う上で、児童の視点に立った単元の導入、学習の目的意識をもつことができる学習活動を計画していきたい。
- 社会性の学習では、「できた。」という達成感を積み重ねていけるように、本人の実態に応じた手だてを工夫できるようになりたいと考える。まずは、児童・生徒への具体的な言葉掛けを意識していく。